平成24年度第1回くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会

日 時：平成24年5月29日（火）午後7時00分～

場 所：ウェルパルクまもと4階会議室

会 次 第

- 1 健康福祉子ども局次長挨拶
- 2 委 員 紹 介
- 3 会長選任、副会長指名
- 4 会 長 挨 拶
- 5 議 事
 - (1) 在宅医療・介護と多職種連携について
 - (2) 今後の取り組みについて
 - (3) その他

これまでの取り組み①

くまもと医療都市ネットワーク懇話会

【目的】

- 熊本市の恵まれた医療境を活かして、先端医療都市としての魅力向上や医療サービスネットワークの構築を図る。

【メンバー】

- 拠点病院長、縣市医師会、化血研、縣市、学識経験者
- 座長：市長

平成23年度

- 懇話会設置・開催(3回)
- 作業部会開催(6回)
- 在宅医療部会開催(2回)
- 在宅医療に関するアンケート調査実施(7月)
- 「くまもと医療都市2012グランドデザイン」策定(3月)

(1)背景

- ・恵まれた医療資源
- ・受療行動の広域化
- ・東日本大震災後の社会変化

(2)医療における主な課題

- ・少子高齢化の進展への対応
- ・特徴的な疾病構造
- ・精神医療体制
- ・周産期医療
- ・小児救急医療
- ・災害医療
- ・在宅医療
- ・情報の提供

(3)熊本市が目指す医療都市

①最先端の医療技術を発信する九州の医療拠点都市

- 新たな医療分野の開拓や革新的な医療技術の創造を通じて、先端的な医療技術が発信されることを目指す。
- 魅力的な医療情報を九州内に広く発信し、医療で選ばれる医療拠点都市を目指す。

熊本市から先端医療技術の発信

九州の医療拠点都市

効果

- 市民が先端的な医療を受けやすくなる
- 医療都市としてのブランドイメージが定着する
- 県外からの患者による経済効果(雇用効果)も期待できる

効果的な取組みの提案

研究拠点都市としての展開

- ・基礎医学から臨床応用への橋渡し
- ・研究に携わる人材の育成

がん対策と情報発信

- ・「がん情報・相談センター(仮称)」の設置

②機能分化と連携によって質の高い医療を提供できる都市

- 専門医とかかりつけ医の連携など、多くの医療機関が連携してスムーズに診療が行える「ネットワーク型」の医療を目指す。
- 「救急ワークステーション」や「小児専用集中治療室」など、さらに市民の安全につながる救急医療体制を目指す。
- 万一災害が発生しても、市民が安心して医療を受けられる体制作りを目指す。

ネットワーク型の医療

質の高い安定した救急サービスの提供

災害時でもすべての市民が安心して医療を受けられる体制の確保

効果

- 1枚の診察券ですべての医療機関を受診できる
- かかりつけ医を要とした連携で、必要に応じて適切な医療が受けられる
- 急性脳疾患・心疾患や重篤な小児の救命率が向上する
- かかりつけの病院が被災しても、代替りの医療機関で必要な医療が受けられる

効果的な取組みの提案

連携による疾病対策

- ・精神医療体制の充実
- ・救急医の育成
- ・予防医療の推進

医師養成

- ・女性医師の活用

プレホスピタルケアの充実

- ・救急ワークステーションの設置

市民病院の役割

- ・急性期拠点病院
- ・地域の基幹病院

③高齢者や障がい者などが住みなれた地域でいきいきと暮らせる都市

- 在宅医療・介護の整備により、高齢者自らが望む場所で療養することができる社会の実現を目指す。
- 在宅医療を支える家族などの負担軽減のための支援を行い、安心して療養できる環境づくりを目指す。

在宅療養を望むすべての患者と家族が安心して生活できる社会

効果

- (望む人は)心身の機能が低下した高齢者・患者であっても、自宅や地域で安心して暮らせる
- (望む人は)がんの終末期や難病であっても、社会や家族との絆のなかで尊厳を持って生活できる

効果的な取組みの提案

在宅医療・介護

- ・地域包括ケアシステムの構築
- ・「在宅医療情報・相談センター(仮称)」の設置
- ・地域で支える体制づくり
- ・住まいの整備
- ・レスパイト支援など

医師養成

- ・総合医の育成

市民病院の役割

- ・在宅医療の推進

政令指定都市となった熊本市がこれから目指す10年後の医療の姿を提示する。

(3) 高齢者や障がい者などが住みなれた地域でいきいきと暮らせる都市

高齢者の生活を支える在宅医療・介護の推進

自宅での療養を望んでいても、介護の負担が大きいことや介護力不足などにより、自宅で終末を迎える人は1割程度。

医療と介護の連携強化 → 地域包括ケアシステムの確立

病状急変時への不安 → 医療機関のバックアップ体制の確立

高齢単身世帯などの介護力の不足 → 「サービス付き高齢者向け住宅」などの整備

きめ細やかな在宅医療・介護サービスの提供

患者と家族のQOLを尊重する在宅医療の推進

がんの終末期、難病、重症心身障害児などの患者の在宅療養生活は、特に濃厚な医療を必要とし、昼夜を問わず介護者への負担が大きい。

医療提供 → 24時間いつでも対応できる医療連携体制の構築

介護負担 → レスパイトやピアカウンセリングの充実

終末期 → QOLを尊重して医療を選択する考え方の醸成

医療サービスと精神的な支えの両面から生活を支援

在宅療養を望むすべての患者と家族が安心して生活できる社会

効果

- ・(望む人は)心身の機能が低下した高齢者・患者であっても、自宅や地域で安心して暮らせる
- ・(望む人は)がんの終末期や難病であっても、社会や家族との絆のなかで尊厳を持って生活できる

これまでの取り組み②ー1

在宅医療部会

- 懇話会において、在宅医療は今後取り組んでいくことが必要な大きなテーマの1つとして位置づけられた。
- 在宅医療を専門的に協議するために部会を設置。

第1回 在宅医療の現状と課題 等

第2回 医療と介護の連携について

(第5期熊本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(はつらっプラン)策定委員会 第3回地域包括ケアのあり方に関する専門委員会と合同開催)

【メンバー】

組織名称	職名	氏名
熊本市医師会	副会長	園田 寛
国立病院機構熊本医療センター	事務部長	岡田 安正
ひまわり在宅クリニック	院長	後藤 慶次
在宅ステーション水前寺訪問看護事業所	部長	宇土 明美

これまでの取り組み②ー2

第1回 在宅医療部会

○在宅医療の課題

ネットワークづくり

(医療・介護・福祉、急性期病院)

情報発信

(市民向け、医療従事者向け)

研修(訪問看護St、ケアマネ、ヘルパー、開業医による看取り)

後方支援体制

(急変時の病床確保)

環境整備

(質・量、ハード・ソフト)

ボランティア育成

(在宅緩和ケアなど)

在宅サービスの充実

(介護サービス、小児)

患者への財政援助

これまでの取り組み②-3

第2回 在宅医療部会

○医療と介護の連携について

専門職間の相互理解

- 医療 - 介護(医師とケアマネ、看護師とヘルパー など)
- 医療 - 医療(在宅スタッフと病院スタッフ など)

医療・介護の情報共有

- 患者の状態悪化時などの情報共有とタイムリーな連携
- 在宅医療資源の情報

多職種連携の仲介役

- 訪問看護、ケアマネ、地域包括支援センターの役割

今後の取組みについて

これまでの取組み

- ・在宅医療関係者からの聞き取り調査
- ・「くまもと医療都市ネットワーク懇話会 在宅医療部会」の開催
- ・在宅医療に関するアンケート調査の実施

多職種連携の課題

- ・多職種間の相互理解
- ・在宅医療に関する情報不足 など

これからの取組み

くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会の設置

多職種協働による在宅医療提供体制の構築と、関係団体との連携と取組みを推進する。

○委員

医療関係者、介護関係者、その他

○検討内容

- ・在宅医療の目指す姿
- ・多職種連携体制
(24時間対応、情報共有、研修会等)
- ・情報収集・発信 等

研修会の開催

地域性を考慮した小規模なブロックごとに研修会を開催することで、多職種による「顔の見える関係」を構築するとともに、地域ごとの資質向上を図る。

○参加者

医師、訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなど

○内容

- ・各職種の役割の明確化
- ・症例検討 等

在宅医療情報・相談センター（仮称）の設置

円滑な連携と効率的な在宅医療提供のための支援を行う。

○情報の一元化

在宅医療に関する情報を収集し、一元的に管理・発信することで、多職種の連携強化を促進する。

○相談機能

関係機関及び市民からの相談窓口機能をはたす。必要に応じて、在宅患者受入れに関する調整や地域包括支援センター等への助言等を行う。

目標

多職種連携による在宅医療提供体制を整備することで、
市民が安心して在宅療養生活を送ることができる

スケジュール(案)

くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会

研修会

在宅医療情報・相談センター
(仮称)

H24. 5月	第1回 ・在宅医療・介護と多職種連携について		
6月	第2回 ・多職種連携について		
7月	・研修会について ・在宅医療の情報について		
8月			
9月	第3回 ・多職種連携について		情報収集・整理
10月	・研修会について ・在宅医療の情報について ・レスパイトについて	第1回	
11月			
12月	第4回 ・在宅医療の情報について ・レスパイトについて	第2回	
H25. 1月			センター開設
2月		第3回	
3月			